

幸田町地域公共交通計画(仮称)策定について

～都市交通政策に関するニーズ調査計画～

1. 調査方針

1.1 調査目的

幸田町民を対象に、アンケート及びヒアリング調査を実施し、交通行動、公共交通の利用状況及び公共交通の維持・確保のあり方、有料化などの都市交通施策に関するニーズを把握・整理する。

住民意識調査の結果から、幸田町民の大半は、年齢層を問わず自家用車利用を前提とした生活スタイルの定着が伺われることから、コミュニティバスの主な利用者となり得る鉄道利用者、高齢者、中高生、企業、障害者団体を対象に調査を行う。

1.2 調査時期

令和5年9月頃の実施を予定する。

1.3 調査対象・調査手法

調査対象および調査手法を、以下に示す。

表 1-1 調査対象・調査手法

	調査対象	調査手法
鉄道利用者	JR 東海道本線鉄道駅利用者（全3駅：三ヶ根駅、幸田駅、相見駅）	・駅前広場にて、アンケートチラシを配布 ・平日7～18時での調査 ・目標サンプル数：300サンプル（各駅100サンプルずつ）
高齢者	幸田町老人クラブ連合会会員（会員数1,886人：HP公表値）	・老人クラブを通じ、紙媒体調査票※の手渡し配布・回収を想定 ※対応可能な場合、電子メール等での配布・回収も検討 ・目標サンプル数：400サンプル（回収率20%程度想定）
中高生	幸田町内の中高生（幸田高等学校、幸田中学校、南部中学校、北部中学校） ※教育委員会等を通じて協力を依頼	・教育委員会を通じ、紙媒体調査票※の手渡し配布・回収を想定 ※対応可能な場合、電子メール等での配布・回収も検討 ・目標サンプル数：300サンプル
企業	幸田町周辺に立地する企業 ※通勤手当や企業バス等を扱う部署の担当者の方に回答を依頼	・電子メール等での配布・回収※を想定 ※対応不可の場合、紙媒体調査票の手渡し配布・回収も検討
町民	幸田町在住者	・QRコードを用いたWEBアンケート調査 ・幸田町の広報紙にQRコードを記載
障害者団体	幸田町内の障害者団体（幸田町身体障害者福祉協会、幸田町手をつなぐ育成会、幸田町聴覚障害者福祉協会）	・ヒアリング調査を実施

1.4 調査項目・調査結果の活用方法

普段の交通行動、送迎の状況、各主体に着目した交通行動、公共交通の利用状況・ニーズ、公共交通のあり方、マイカー通勤の抑制について、調査項目を設定した。

表 1-2 調査項目・調査活用方法

項目			対象					活用方法
大分類	中分類	小分類	鉄道	高齢者	中高生	企業	町民	
普段の 交通行動	平日の移動	移動目的	-	●	-	-	●	・移動実態、特性を分析
		目的地	-	●	-	-	●	
		頻度	-	●	-	-	●	
		出発時刻/帰宅時刻	-	●	-	-	●	
		交通手段	-	●	-	-	●	
	休日の移動	移動目的	-	●	-	-	●	
		目的地	-	●	-	-	●	
		頻度	-	●	-	-	●	
		出発時刻/帰宅時刻	-	●	-	-	●	
		交通手段	-	●	-	-	●	
送迎の状況	送ってもらう	送迎（送ってもらう）の頻度	-	●	●	-	●	・公共交通に転換する潜在的な需要を把握
		出発地、目的地、平日休日	-	●	●	-	●	
		公共交通で行ける場合の意向	-	●	●	-	●	
	誰かを送る	送迎（送る）の頻度	-	●	-	-	●	
		出発地、目的地、平日休日	-	●	-	-	●	
		公共交通で行ける場合の意向	-	●	-	-	●	
各主体に 着目した 交通行動	鉄道利用に関連した移動	鉄道の利用時刻（行き/帰り）	●	-	-	-	-	・エコたんパスと鉄道の連携に関する分析
		自宅から駅までの所要時間	●	-	-	-	-	
		駅までの交通手段	●	-	-	-	-	
	高齢者の移動	徒歩移動可能な時間	-	●	-	-	-	・交通不便地域の把握 ・外出に対する阻害要因の把握
		外出が「むずかしい」「おっくう」と感じることはあるか	-	●	-	-	-	
		外出が「むずかしい」「おっくう」と感じる理由	-	●	-	-	-	
	通学	登校時刻/下校時刻	-	-	●	-	-	・通学、塾通いの実態を分析
		自宅から学校までの所要時間	-	-	●	-	-	
		交通手段	-	-	●	-	-	
	塾通い	塾通いの有無	-	-	●	-	-	
		塾へ行く時刻（帰る時刻）	-	-	●	-	-	
		自宅から塾までの所要時間	-	-	●	-	-	
		交通手段	-	-	●	-	-	
	通勤	従業員の通勤手段	-	-	-	●	-	・通勤の実態、公共交通への転換意向を分析
		通勤手当	-	-	-	●	-	
		従業員の居住地	-	-	-	●	-	
公共交通の 利用状況 ニーズ	エコたんパス	利用頻度	●	●	●	-	●	・公共交通の利用状況、課題を把握 ・公共交通再編による効果の分析
		利用バス停	●	●	●	-	●	
		利用しない理由	●	●	●	-	●	
		満足度・重要度	●	●	●	-	●	
		改善点	●	●	●	-	●	
		改善された場合の利用意向	●	●	●	-	●	
	チョイソコ	利用頻度	-	●	-	-	●	
		利用停留所	-	●	-	-	●	
		利用しない理由	-	●	-	-	●	
		満足度・重要度	-	●	-	-	●	
		改善点	-	●	-	-	●	
		改善された場合の利用意向	-	●	-	-	●	
	藤田乗合 直行タクシー	利用頻度	-	●	-	-	●	
		利用停留所	-	●	-	-	●	
		利用しない理由	-	●	-	-	●	
		満足度・重要度	-	●	-	-	●	
		改善点	-	●	-	-	●	
		改善された場合の利用意向	-	●	-	-	●	
公共交通 のあり方	幸田町内の公共交通は、どのような目的のために優先して維持すべきか		●	●	●	-	●	・公共交通再編の方向性を分析
	交通サービスへの支払意思額		●	●	●	-	●	
	社会参加、介護予防に必要と思う支援		-	●	-	-	-	
	外出断念の経験有無		-	●	●	-	-	
	公共交通の充実により行ってみたい外出先		-	●	●	-	-	
	交通の適正化に向けて参加・協力できること		●	●	●	-	●	
マイカー通勤 の抑制	減らしたいという意図の有無		-	-	-	●	-	・マイカー通勤に関する意向や効果を把握
	従業員のマイカーを減らす工夫の実施状況		-	-	-	●	-	
	実施していない場合の検討の可能性		-	-	-	●	-	
	マイカー通勤を抑制することで得られると思う効果		-	-	-	●	-	

2. 鉄道利用者アンケート調査

2.1 調査対象

JR 東海道本線鉄道駅利用者（全 3 駅：三ヶ根駅、幸田駅、相見駅）を対象とする。

2.2 調査方法

駅前広場にて、調査員による聞き取り調査を実施する。また、アンケート調査 QR コードを付与したチラシを配布する。調査時期は令和 5 年 9 月頃の平日 7～18 時を予定する。

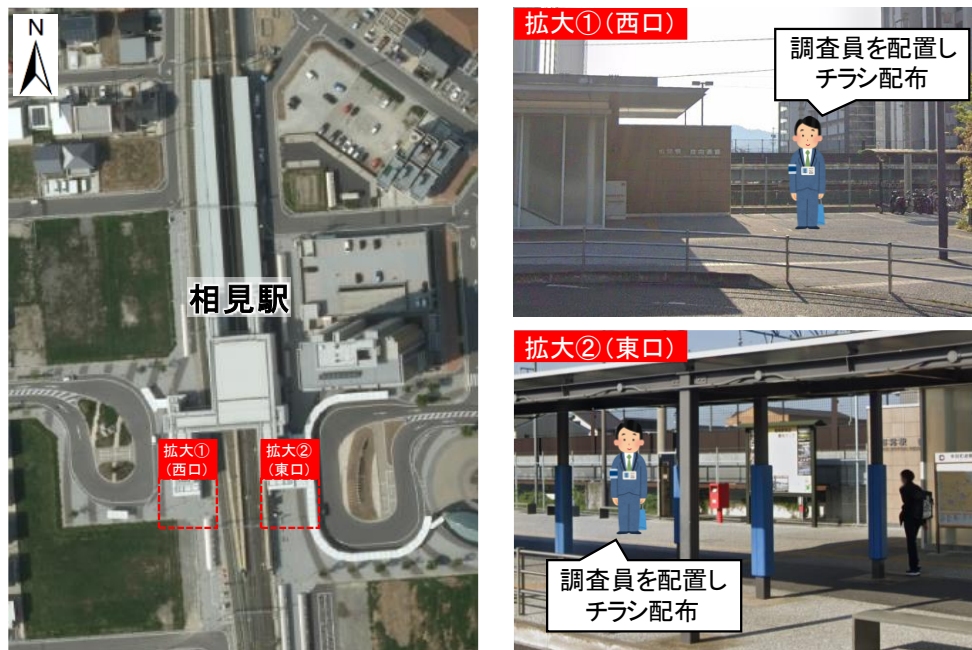


図 2-1 調査箇所の位置図（相見駅）



図 2-2 調査箇所の位置図（幸田駅）



図 2-3 調査箇所の位置図（三ヶ根駅）

(幸田町地域公共交通会議)

0/00[月]
スタート



締切:0月00日(木)



図 2-4 配布用チラシ（案）

2.3 調査項目

個人属性、鉄道利用に関連した移動、公共交通の利用状況・ニーズ（エコたんバス）、公共交通のあり方について調査する。

鉄道の利用状況とエコたんバスの課題を合わせて把握することで、鉄道とエコたんバスの連携（バスルート、バスダイヤの調整等）の可能性について分析する。

表 2-1 調査項目

大分類	中分類	小分類
個人属性	住所（28行政区）	－
	性別、年齢	－
	職業	－
	自動車利用状況	－
	免許返納意向	
各主体に着目した 交通行動	鉄道利用に関連した移動	鉄道の利用時刻（行き/帰り）
		自宅から駅までの所要時間
		駅までの交通手段
公共交通の 利用状況 ニーズ	エコたんバス	利用頻度
		利用バス停
		利用しない理由
		満足度・重要度
		改善点 改善された場合の利用意向
公共交通 のあり方	幸田町内の公共交通は、どのような目的のために優先して維持すべきか	
	交通サービスへの支払意思額	
	交通の適正化に向けて参加・協力できること	

3. 高齢者アンケート調査

3.1 調査対象

幸田町老人クラブ連合会会員を対象とする。

3.2 調査方法

老人クラブを通じ、紙媒体調査票※の手渡し配布・回収を想定する。目標サンプル数は 300 サンプル程度を想定する。 ※対応可能な場合、電子メール等での配布・回収も検討

3.3 調査項目

個人属性、普段の交通行動、送迎の状況、高齢者の移動、公共交通の利用状況のニーズ（えこたんバス、チョイソコ、藤田乗合直行タクシー）、公共交通のあり方について調査する。

普段の交通行動について調査し、移動実態を分析する。加えて、公共交通の潜在需要として、送迎の状況についても調査する。また、高齢者の徒歩移動可能な時間について調査し、公共交通のカバー圏を把握するための基礎資料とする。

公共交通の利用状況・ニーズ、公共交通のあり方を調査し、公共交通の課題や再編の方向性、再編の効果について分析する。

表 3-1 調査項目（1/2）

大分類	中分類	小分類
個人属性	住所（28行政区）	－
	性別, 年齢	－
	職業	－
	自動車利用状況	－
	免許返納意向	
普段の交通行動	平日の移動	移動目的
		目的地
		頻度
		出発時刻/帰宅時刻
		交通手段
	休日の移動	移動目的
		目的地
		頻度
		出発時刻/帰宅時刻
		交通手段
送迎の状況	送ってもらう	送迎（送ってもらう）の頻度
		出発地、目的地、平日休日
		公共交通で行ける場合の意向
	誰かを送る	送迎（送る）の頻度
		出発地、目的地、平日休日
		公共交通で行ける場合の意向
各主体に着目した交通行動	高齢者の移動	徒歩移動可能な時間
		外出が「むずかしい」「おっくう」と感じることはあるか
		外出が「むずかしい」「おっくう」と感じる理由

表 3-2 調査項目 (2/2)

大分類	中分類	小分類
公共交通の利用状況 ニーズ	えこたんバス	利用頻度
		利用バス停
		利用しない理由
		満足度・重要度
		改善点
		改善された場合の利用意向
	チョイソコ	利用頻度
		利用停留所
		利用しない理由
		満足度・重要度
		改善点
		改善された場合の利用意向
	藤田乗合 直行タクシー	利用頻度
		利用停留所
		利用しない理由
		満足度・重要度
		改善点
		改善された場合の利用意向
公共交通のあり方	幸田町内の公共交通は、どのような目的のために優先して維持すべきか	
	交通サービスへの支払意思額	
	社会参加、介護予防に必要と思う支援	
	外出断念の経験有無	
	公共交通の充実により行ってみたい外出先	
	交通の適正化に向けて参加・協力できること	

4. 中高生アンケート調査

4.1 調査対象

幸田町内の中高生（幸田高等学校、幸田中学校、南部中学校、北部中学校）を対象とする。

4.2 調査方法

教育委員会を通じ、紙媒体調査票※の手渡し配布・回収を想定する。目標サンプル数は 300 サンプル程度を想定する。 ※対応可能な場合、電子メール等での配布・回収も検討

4.3 調査項目

個人属性、送迎の状況、通学・塾通いの状況、公共交通の利用状況・ニーズ（えこたんバス）、公共交通のあり方について調査する。

通学・塾通いの状況について調査し、移動実態を分析する。加えて、公共交通の潜在需要として、送迎の状況や外出断念の経験、公共交通で行ってみたい外出先についても調査する。

公共交通の利用状況・ニーズ、公共交通のあり方を調査し、公共交通の課題や再編の方向性、再編の効果について分析する。

表 4-1 調査項目

大分類	中分類	小分類
個人属性	住所（28行政区）	－
	性別, 年齢	－
送迎の状況	送ってもらう	送迎（送ってもらう）の頻度
		出発地、目的地、平日休日
		公共交通で行ける場合の意向
各主体に着目した交通行動	通学	登校時刻/下校時刻
		自宅から学校までの所要時間
		交通手段
	塾通い	塾通いの有無
		塾へ行く時刻（帰る時刻）
		自宅から塾までの所要時間
公共交通の利用状況 ニーズ	えこたんバス	交通手段
		利用頻度
		利用バス停
		利用しない理由
		満足度・重要度
		改善点
公共交通のあり方		改善された場合の利用意向
		幸田町内の公共交通は、どのような目的のために優先して維持すべきか
		交通サービスへの支払意思額
		外出断念の経験有無
		公共交通の充実により行ってみたい外出先
		交通の適正化に向けて参加・協力できること

5. 企業アンケート調査

5.1 調査対象

幸田町周辺に立地する企業。

5.2 調査方法

通勤手当や企業バス等を扱う部署の担当者の方に回答を依頼する。電子メール等での配布・回収を想定する。

5.3 調査項目

事業所の情報、通勤の実態、マイカー通勤の抑制に関する取組・意向について調査する。

通勤の実態や公共交通の転換意向、公共交通の適正化へ向けて参加・協力できることについて調査し、通勤時の自家用車から公共交通への転換の可能性について分析する。

表 5-1 調査項目

大分類	中分類	小分類
事業所の情報	従業員数	—
	就業形態・時間	—
通勤	従業員の通勤手段	
	通勤手当	
	従業員の居住地	
マイカー通勤 の抑制	減らしたいという意図の有無	
	従業員のマイカーを減らす工夫の実施状況	
	実施していない場合の検討の可能性	
	マイカー通勤を抑制することで得られると思う効果	

6. 町民アンケート調査

6.1 調査対象

幸田町在住者を対象とする。

6.2 調査方法

QRコードを用いたWEBアンケート調査を実施する。幸田町の広報紙（くらしインフォメーションの一部に）にQRコードを記載しアンケート調査への協力を依頼する。

くらし インフォメーション Life Information

今月の納税と料金納付

○固定資産税・都市計画税	第2期分
○国民健康保険税	第1期分
○後期高齢者医療保険料	第1期分
○介護保険料	第1期分
○水道料金・下水道使用料	5・6月分
○保育料	7月分
○町営住宅家賃	7月分
○児童クラブ育成手数料	6月分
*納入期限 7月31日※	

便利な口座振替の利用を!
(申請は税務課または町内金融機関で)

調査

**地域公共交通計画
策定に向けた
アンケート調査にご協力を**

幸田町では、町民の皆様の生活の足となる公共交通をより使いやすくまた持続可能としていくため、幸田町地域公共交通計画の策定を進めております。

今回、計画へ市民の皆様の声を反映させるため、アンケート調査を実施することといたしました。

お忙しいところ恐れ入りますが、調査の目的をご理解いただき、アンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

問合せ

●●●●●

更新予定

▲入力はこちらからお願います

図 6-1 広報紙内での募集イメージ（案）

6.3 調査項目

個人属性、普段の交通行動、送迎の状況、公共交通の利用状況・ニーズ（エコたんバス、チョイソコ、藤田乗合直行タクシー）、公共交通のあり方について調査する。

普段の交通行動について調査し、移動実態を分析する。加えて、公共交通の潜在需要として、送迎の状況についても調査する。

公共交通の利用状況・ニーズ、公共交通のあり方を調査し、公共交通の課題や再編の方向性、再編の効果について分析する。

表 6-1 調査項目

大分類	中分類	小分類
個人属性	住所（28行政区）	－
	性別、年齢	－
	職業	－
	自動車利用状況	－
	免許返納意向	－
普段の交通行動	平日の移動	移動目的
		目的地
		頻度
		出発時刻/帰宅時刻
		交通手段
	休日の移動	移動目的
		目的地
		頻度
		出発時刻/帰宅時刻
		交通手段
送迎の状況	送ってもらう	送迎（送ってもらう）の頻度
		出発地、目的地、平日休日
		公共交通で行ける場合の意向
	誰かを送る	送迎（送る）の頻度
		出発地、目的地、平日休日
		公共交通で行ける場合の意向
公共交通の利用状況 ニーズ	エコたんバス	利用頻度
		利用バス停
		利用しない理由
		満足度・重要度
		改善点
		改善された場合の利用意向
	チョイソコ	利用頻度
		利用停留所
		利用しない理由
		満足度・重要度
		改善点
		改善された場合の利用意向
	藤田乗合 直行タクシー	利用頻度
		利用停留所
		利用しない理由
		満足度・重要度
		改善点
		改善された場合の利用意向
公共交通のあり方	幸田町内の公共交通は、どのような目的のために優先して維持すべきか	
	交通サービスへの支払意思額	
	交通の適正化に向けて参加・協力できること	

7. 障害者団体ヒアリング調査

7.1 調査対象

幸田町周辺に立地する障害者団体（幸田町身体障害者福祉協会、幸田町手をつなぐ育成会、幸田町聴覚障害者福祉協会）。

7.2 調査方法

障害者団体の担当者の方にヒアリング調査を実施する。

7.3 ヒアリング内容

以下の内容について、ヒアリング調査を実施予定である。

- ・公共交通を利用した移動の際の問題・課題（バリアフリーの状況等、バスの案内等）
- ・福祉タクシー等の利用状況、利用の阻害要因
- ・広報紙等の町の情報発信の認知状況